

麦の収量確保・品質向上のため、

播種前の3つのポイントを押さえて、適期に播種をしましょう！

令和7年10月
東讃農業改良普及センター
東讃農業改良普及協議会

①播種前の排水対策

麦の播種前は降雨が集中する時期です。排水対策を徹底して、播種に備えましょう！

◎播種前の排水対策のメリット

(1)播種時の練り播きの防止

土壌が過湿だと大きな土塊ができたり多すぎる土壤水分で出芽不良になり、減収につながります。



【大きな土塊による出芽不良】

(2)初期除草剤の効果安定

過湿のため耕起で土塊ができると、その陰には除草剤がかからず雑草が生えやすくなります。



【土塊の陰から生えた雑草】

播種前の早いうちに、額縁明きよ・3～5m間隔での排水溝設置や、スタブルカルチなどでの耕起で、ほ場の乾田化を進めましょう。



【スタブルカルチでの耕起】



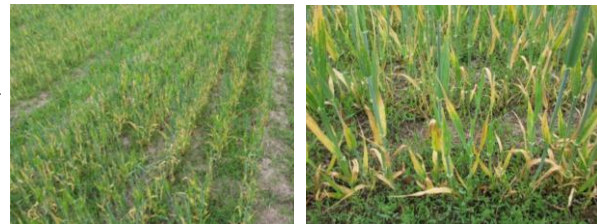
額縁明きよで水の流入を防ぎつつ、排水を促す。



排水溝は落水口につなげて、滞水を防ぐ。

②土壌酸性障害対策

麦のみを栽培するほ場では、pHが低下(5.5以下)し、酸性障害が発生しやすいです。苦土石灰等を投入し、適正なpH6.0～6.5に調整しましょう。



【酸性障害の様子】

葉の黄化・葉枯れ・生育不良といった症状。pHの調整をしないと、ほ場内で症状が年々拡大し、大きく収量が低下。酸性障害が疑われる場合、普及センターでpHの分析ができますので、ご相談ください。

資材	施用量
粒状苦土石灰	60～100kg/10a
・前年に酸性障害が出たほ場では、100～150kg/10a程度施用する。	

③雑草対策

雑草が残っている場合は、播種前に非選択性除草剤を散布し枯らしましょう。古草には初期・中期の除草剤が効かず、大きくなると麦の生育不良につながります。

薬剤	対象雑草	使用時期／回数
ザクサ液剤	一年生雑草	耕起または播種前(雑草生育期)／1回
プリグロックスL	一年生雑草	播種前または播種後出芽前／4回以内
ラウンドアップマックスロード	一年生雑草及び多年生イネ科雑草	耕起前または播種後出芽前(雑草生育期)／3回以内

※麦の出芽後に散布すると、麦も枯れるので注意する。

ポイントを押さえた上で、適期播種へ！

品種	播種早限	播種適期	
さめきの夢2009	—	中山間地	11/10～20
		平坦地	11/15～30
はるか二条	11/15	11/20～12/5	
はるみずき	11/15	11/20～12/10	

【注意】前年から品種を変える場合：同じほ場では前年の麦(落穂)が出芽してしまうことがあるため、できるだけ前作が水稻のほ場を選びましょう。

早播きは、凍霜害や、収穫前に生育が衰えることで枯れ熟れになるリスクが、遅播きは、収量低下や、収穫が梅雨に入り品質が低下するリスクがあります。また、練り播きは出芽不良につながるため、適度に乾いてから播種しましょう。